

江津市教育大綱（案）パブリックコメントの結果について【回答】

1. 実施概要	
案件名	江津市教育大綱（案）
担当課	教育委員会社会教育課
意見募集期間	令和7年12月26日から令和8年1月31日
意見提出者数	4名
意見提出件数	16件

2. ご意見と市の考え方	
反映区分	件数
A：意見を反映し、計画等を修正したもの	0件
B：意見が既に計画に反映されているもの	7件
C：今後の参考とするもの	5件
D：ご意見を計画等に反映させないもの	2件
E：その他の要望や質問、感想など	2件

2. ご意見と市の考え方

番号	いただいたご意見の概要	市の考え方や意見反映	区分
1	他自治体で実施していない「ギフトドのテスト」を行うことで、江津市への転入も増える。	ご提案の「ギフトドテスト」は、創造性が豊かであったり、特定の分野に高い興味・能力を持ったりする子どもの特性を判別するものと伺っています。このテストを行い、児童生徒の特性を判断した個別のプログラムの提供を義務教育として実施することは困難です。しかし、ご提案の主旨となる個性や特性を児童生徒自身が、主体的に伸ばしていくことの重要性に鑑み、地域の教育資源と向き合うなかで、自分の興味や好きなことを見つけ、それを伸ばしていく機会としてとらえた「ふるさと・キャリア教育」の深化や「アントレプレナーシップ教育」のプログラム構築のなかで検討いたします。	C
2	大人になってからの学ぶ姿勢の欠如が課題	ご指摘の大人の学びの重要性の認識や「学ぶ姿勢」の醸成は社会教育の役割です。地域でのコミュニティ活動や、社会貢献活動などにおいて、大人の「気づき」による学びが生まれる活動となるサポートを社会教育としてさらに検討いたします。	C
3	他者へのリスペクトが低いことが課題	お互いに認め合う共生社会の実現に向けては、市民一人一人が人権について深く理解し、お互いの個性や価値観を認め合い、多様性が尊重されることが大切です。そのために、人権の視点を日常に根付かせる取組を行い、家庭・学校・地域において、他者の立場に共感し、違いを尊重する「人権感覚」を育むことで、豊かな心を備えた人材の育成を図ります。	B
4	コミュニティ・スクールの効果をたかめること	ご指摘のとおり、学校の教育方針を地域の方と一緒に考え、地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みとなるコミュニティ・スクールは学校を含めた地域全体のよりよい教育の推進だけでなく、大人の学びや地域の活性化につながる取組みであることから、学校や地域任せにせず、形骸化しないように教育委員会が関わり続ける必要があります。	B
5	「地域社会に新たな価値を創造する人材」が認めてもらうための支援が必要	新しい価値を創造するときには、これまでの考えや行動との間に葛藤が生じます。地域社会における課題解決や持続的な社会の発展と地域の維持、そして自他のウェルビーイング向上のためには、自分の考えだけに固執せず、多様な立場や意見を理解することが大切です。こうした機会が地域社会で行われるための社会教育活動を推進し、進行役のファシリテーターの派遣や養成を行います。	B
6	「人権」について市民が深く理解できる取組みの実現	番号3と同様の回答といたします。	B
7	幼小中連携・接続の推進に高等学校を含めるべき	市内小中学校における学校経営方針は、当教育大綱を参酌のうえ各校長が立案し、学校運営協議会で議論のうえ決定することになります。高等学校においては、県の策定する教育に関する計画等を参し各校でグラウンドデザインを検討しています。江津市では教育魅力化の取組において、コンソーシアムを形成するなかで、高等学校と地域との連携を支援するかたちで連携を図ります。	D
8	ふるさと・キャリア教育における連携先として私立高校も含めるべき	現在は、教育魅力化の取組において県立学校と連携した取組を進めております。ご指摘のとおり、定住対策や周辺地域の活性化の観点から私立の高等学校との連携の必要性が考えられます。今回の教育大綱改定までに、私立高等学校と具体的な連携のあり方の議論はなされていませんが、今後の取組において大切な視点と認識しており、これからの事業推進のなかで検討いたします。	C
9	文化・スポーツの振興に高等学校も対象にするべき	番号7と同様の考えに立ち、江津市教育大綱では、地域における文化・スポーツ活動において、高校生の活躍を期待するものです。また、今後の部活動の地域連携・地域展開や郷土学習における地域との連携の場合は社会教育として支援いたします。	D
10	アントレ教育において、キャリア・パスポートを具体的にどう活用するか示してほしい	文部科学省では、キャリア・パスポートの目的を「小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見守ったり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学ぶ力を育み、自己実現につながるもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。」とされています。アントレプレナーシップ教育では、自らの学習状況やキャリア形成を見守ったり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるプログラムを検討していますが、新たなシステム導入や時数を最小限にするために既存のキャリア・パスポートを活用しようとするものです。ただし、これを具体的にどのように活用するかは、現在検討段階です。	E
11	幼小中連携・接続について具体的な取組として積極的に推進すべき。また、体験入学等は、秋ごろに開催しては	幼小中の連携については、当大綱を活用し、めざす子どもの姿を共有しながら進めていきます。また、体験入学等の学校行事は各校の年間スケジュールのなかで実施されます。教育大綱としては触れることができませんので、後段についてはご意見として承ります。	B
12	部活動における「仲間と共に目標に向かって努力し挑戦する場」としての記載が必要	当大綱においては、該当箇所の説明として、「スポーツが生活のなかで日常的にあることで、健康的な心と体を整えたり、他者とのつながりのなかで、共に生きることを体験的に理解することができます。」と記載しており、ご指摘の内容に近い主旨で記述させていただいております。	B
13	ふるさと・キャリア教育と、学校家庭地域の連携、コミス運営は、横のつながりを密にして取り組んでほしい	ご指摘のとおり、挙げていただいた取組は、それぞれの施策に分けて掲載しておりますが、一体的な取組です。また、教育委員会と関係部署が連携を図りながら取組みを推進します。	B
14	キャリア・パスポートへ個人の課外活動も明記できる仕組みがあると良い	キャリア・パスポートの活用については、施策のアントレプレナーシップ教育の項で触れられていますが、基本的に学校の教育課程のなかで学んだことを記入する取扱いをしています。ご提案の課外活動は子どもたちの経験や成長のうえで非常に大切な学びにつながることから、アントレプレナーシップ教育のプログラム検討と合わせて、課外活動の記載が可能かどうか検討いたします。	C
15	児童生徒数減少への対応を全面的に明記すべき	教育大綱では、児童生徒のめざす姿を示して、どのような学びが必要か、それをどのような方針で進めるかを示しています。ご指摘のように、児童生徒数の減少は大きな課題と認識しており、児童生徒数が減少しても、この大綱にある教育の方針をどのように実施できるかを、現在協議している学校整備再編基本計画検討委員会のなかで検討中です。	C
16	アンケート結果はどう大綱に反映されているか。	児童生徒に実施したアンケートの選択肢は、教育大綱のなかの特徴的な部分をあげ、教育大綱の内容が児童生徒にとってどれがより大切なか、説明文として適切かなどを確認するために実施しています。「未来の自分の姿としてあてはまるもの」は、特にめざす姿やビジョンの説明文、江津市の特徴的な施策や新しい取組に反映されています。「しっかりと学ぶために大切だと思うこと」は、特に児童生徒の学習環境に関係する部分に反映されています。「もっと学びたいと思っていることや、興味のあること」は、今後、各校で実施される総合的な学習の時間や、社会教育のテーマとして取り上げたいものの参考として掲載しています。	E